

平成28年度 第1回宝塚市総合教育会議

- 1 日時 平成28年7月28日(木) 15:05～16:35
- 2 場所 宝塚市役所3階 特別会議室
- 3 出席者 (構成員) 中川市長、須貝教育長、井上教育委員、川名教育委員、篠部教育委員、森教育委員
(事務局) 企画経営部長、管理部長、学校教育部長、社会教育部長、政策室長、管理室長、学校教育室長、生涯学習室長、政策推進課長、教育企画課長、政策推進課係長、教育企画課職員

4 内容

■開会

■中川市長あいさつ

それでは、第1回の2016年度の総合教育会議を開催いたします。今回からメンバーが種谷さんから森さんになりましたが、どうぞよろしくお願いいたします。

この総合教育会議は、教育委員会と市長部局との横の連携の中で課題を共有し、また、あるべき宝塚の教育を議論しながら考えていくということで非常に貴重な時間だと思っております。忌憚なく皆さんとお話をして、教育委員会と一緒にこれからも宝塚市の施策についてご意見をお伺いできればと思います。よろしくお願いいたします。

■傍聴

この会議は原則公開とすることとしています。本日の議題には、非公開とするものはありません。本日の傍聴希望者はいらっしゃいますか。

○事務局 本日は、1名の傍聴希望者がいらっしゃいます。

○中川市長 わかりました。では、お入りください。

(傍聴者入室)

○中川市長 それでは、次第により会議を進めてまいります。

■ 議事

議題 1 平成 29 年度教育重点施策の展開（平成 29 年度予算編成に向けて）について（意見交換）

（資料 1 に基づいて、事務局より説明）

- 中川市長 説明は終わりましたので、意見交換を行いたいと思います。
- 井上委員 幼稚園に行きますと、各教室をぜひ冷房化してほしいという声が高いことを感じます。幼稚園は午前中で授業が終わるということで大体つけられていないようなのですが、朝であってもかなり温度が高い。子どもたちが力いっぱいグラウンドで遊んで帰って来た時に、部屋が涼しくないと、水分補給だけでは子どもたちの健康にも大きく影響すると思いますので、冷房化をぜひお願いしたいという保護者の声が強いです。
- 中川市長 事務局の見解はどうですか。
- 事務局 冷房化についてですが、常々、幼稚園などからの要望を受けており、私どもとしても必要であると判断しています。
- 幼稚園も全ての部屋に冷房が入っていないわけではなく、遊戯室と職員の部屋には一応入っていますが、教室には入っていないということで、一昨年ぐらいからは幾つかの幼稚園で午前の授業時間中に室温を測ってもらっています。教室や運動場、外の温度を計測したものを提出してもらい、実施計画に出させてもらっていますが、なかなか採用していただけていないのが現状です。
- 中川市長 予算規模としてはどのくらいになりますか。
- 事務局 幼稚園は低圧の、小・中学校については高圧の電気で契約しています。高圧に変える場合は、キュービクルという、費用がかかる装置・変圧器を設置してエアコンを整備していく必要があります。自

宅のリビングより少し広めの教室なので低圧のエアコンを設置すればいいのではというイメージを持たれるかもしれませんが、実際は相当な費用を要します。

整備を進めるには設計を行い、その翌年に工事費を確保して整備していくという流れになりますが、教室数等を考えると恐らく何千万円という規模になるかと思います。

○川名委員 予算の優先順位を考えると、全室に設置するのは難しいとは思いますが、子どもは体温調節の機能もさほどないわけですから、体を冷やせる部屋は必要なのだろうとも思います。

○須貝教育長 事務局が答えたように、以前から幼稚園でのエアコン設置に関する要望を受けていますので、設置に向けての要求はしております。これだけ気温が高くなりますと、教育環境を改善していくというのは大事だと思います。

○中川市長 遊戯室は全園にあります。冷房機は全てに設置されていますか。

○事務局 はい、そうです。

○中川市長 篠部委員、医師の立場としてはいかがでしょうか。

○篠部委員 やはり、暑いときには一度汗が引くまで居ることが出来る部屋があった方がよいとは思いますが。

○井上委員 子どもたちは、コミュニケーションで部屋の中を頻繁に移動するので、教室に冷房機を設置することが教育環境の面からは良いことだと思います。

○森委員 オープンスクールの時に行ったことはありますが、部屋を全部開放した中での見学だったので、気に留めてはいませんでした。しかし、今話を聞くと、出来ることなら設置を進めていくのが望ましいと思います。

- 中川市長 全体の園児数は減少傾向にありますが、遊戯室に全ての園児が入ることが出来ない幼稚園はどこでしょうか。調べておくべきです。
- 井上委員 長尾幼稚園は新築ですが、そこも遊戯室だけにしか設置していないことには疑問を感じます。新設幼稚園には遊戯室以外にも設置していくべきではないでしょうか。
- 中川市長 公立となると、公平性も考える必要があります。新設幼稚園には全室設置されているが既存幼稚園は遊戯室のみとなると、公平性の観点からいかなるものなのでしょうか。私自身は、洋式トイレの設置を進めていく方が優先ではないかと考えています。
- 川名委員 結局は、限られた予算の中で優先順位をつけて実施していくことになる。小さめの部屋に家庭用のエアコンを設置するというのはいかがでしょうか。
- 事務局 空調については、性能面や適切な維持管理により永続的な使用に耐えることができるかどうか等を総合的に検討する必要があります。可能な限りコストを抑えて予算を平準化出来るような方法で、予算化に取り組んでいきたいと思っています。
- 中川市長 財政面からの意見などはありますか。
- 事務局 予算要望について教育委員会から聞いています。最近の気候条件等を考えると、何としても予算措置をする必要性の高い事業であると認識していますが、それを上回る優先度の高い事業が教育委員会の中に有りますので、今年度は残念ながら予算措置は出来ませんでした。何とかしていきたいと思っています。
- 中川市長 本当に最近の気象は異常で、子どもたちの健康がとても心配であるのは皆さん同じだと思います。
- 現場を見たうえで予算要求をする。例えば、全ての部屋に設置する

というのではなく、出来れば家庭用の少し大きいような機種をあと2つ程度教室に設置して、子どもたちがしばらく教室で落ち着くことが出来るような方法も検討していく。そして、段階的かつ計画的に全園に設置出来る方法も考えていく。以上のような考え方はいかがでしょうか。

○川名委員 出来ることにこしたことはないです。ただ、エアコン設置を進めた結果、何かを削られることになるのであれば、何が削られるのか。その辺りのバランスが気になります。

○中川市長 他にはいかがでしょうか。

○川名委員 読み・書き・そろばんが基本と言われます。きちんと読んできちんと書けること、日本語でしっかり考えられるようになることが大事であり、全ての学力の土台になると思います。本をもう少し買ってもらい、本を活用する活動に予算をつけていただきたい。

宝塚市は他の地域と比べて格差というのは小さい方だとは思いますが、子どもの貧困問題が出てきていますので、寺小屋事業にはもう少し予算をつけて頂きたいと思います。寺小屋事業はボランティアに支えられて成り立っていますが、教材まで持ち出しでやってくださっているので、せめて教材などには少し援助があればいいと強く思っています。

エアコン1台分の費用も要らない細かい事例かもしれませんが、既に活動していることに少しサポートしてもらえると元気が出て良いのではないかと思います。

○中川市長 この間、寺小屋事業をしている方々とお会いする機会がありました。ボランティアの中には遠方からバスを使って来る人もいますが、交通費すら出ていないとの話でした。あまりにも甘え過ぎているので

はないかとの意見を頂きました。教材費についても、「寺小屋頑張ってください。お願いします。」で終わっているという話も聞きましたが、それに対してはいかがですか。

○事務局 報償費としては、1人あたり1回1,000円です。学校によっては盛んに活動して頂いていますが、ボランティアが増えれば増えるほど分配するような形になってしまっているという実情があります。

○須貝教育長 先日、安倉小学校での寺小屋活動を見学しました。低学年の児童が約30名、高学年は約20名いましたが、それに対して、指導者や地域の方々などがボランティアとして3,4人ほどいました。

事務局の説明のように、1人に1,000円×3人が目安になっています。ところが、実際に関わっていただいているのが6人であったら、3,000円を6人で割るという計算になります。

教材費は年間5,000円です。今回の安倉小学校などは宿題を中心に教えているとのことであり、あえて教材を使わない。

なかには、教師をしていた方もおり、教材を自分で作ったりしてやってくれています。

すごく工夫して居場所を、本当の居場所作りというものをされているよう感じました。ものすごく良かったですね。

寺小屋活動は大事なことであり、子どもの居場所にもつながっていきますので、充実させていかなければならないと思います。

○中川市長 具体的にはどのようなものでしょうか。

○須貝教育長 寺小屋への教材の補充が考えられます。

○中川市長 事務局へ聞きます。ボランティアの人数に制限はあるのですか。

○事務局 上限3人及び年間35週ですので、1校あたり105,000円という上限額でやりくりをしています。ただ、学校によって実施回数

などに違いはあると思います。

○森委員 学力というよりも、子どもの居場所づくりが寺小屋の大きな目的の一つであると思います。地域で子どもたちを見ていく、地域の中に子どもの居場所があるという点で、それぞれの学校で寺小屋事業が活発になれば良いと思います。

予算に関してですが、ボランティアの方々の話を聞くと、申請に係る事務手続きがとても大変とのこと。ボランティアの方々の負担感が少しでも軽減出来るように簡素化できないものかと思います。

○中川市長 事務局はどう考えていますか。

○事務局 事務手続きの簡素化について検討させて頂きたいと思います。

○川名委員 事務的などころに時間をあまり使わないで済むようになればいいですね。もちろん、たとえ少額であっても税金から支出するわけですから一定の厳格さが必要であるのは理解していますが、たしかに手続で疲れるというのはあると思います。

○中川市長 寺小屋の代表者の集まりのような意見交換する場はありますか。

○事務局 特にございませぬ。

○中川市長 事務手続きや交通費について、現場の方々のご意見を伺うことが必要かもしれません。県の委託事業ではありますが、市としても、子どもの居場所づくりとして大事であり、拡充していきたい部分であると思います。

○川名委員 今、全国で広がっている子ども食堂のように、たまには子どもたちと一緒に食事出来るようになればいいかもしれませんね。寺小屋を潰す方向ではなく育てる方向にしていけば良いと思います。

○井上委員 宝塚小学校では、放課後遊ぼう会が中心となり、育成会に通えない子どもたちが集まって宿題や遊びが出来るように取り組んでいます。

ボランティアに来ている方々は民生委員などお互い知っている人ばかりであるため、お金にはそこまでこだわりが無いといえますか、特に言われたことはありません。出来るだけみんなで協力してやっていくという雰囲気があります。

ぜひ、連絡協議会のような形で1回集まり、意見を聞いていただけたらありがたいと思います。

○中川市長　　そうですね。お願いします。

では、読書についてはいかがでしょうか。本当に大事なことだと思えますが、蔵書は充実しているのですか。

○井上委員　　いいと思います。司書のみなさんは一生懸命に取り組んでいただいています。どこの学校に寄せていただいても、子どもたちの読書意欲の高さを感じます。ですので、蔵書数よりも司書の日数を増やしていただいた方がありがたいです。

○中川市長　　それも本当に取り組まなければならない課題だと思います。予算に関しては今回が初めて議題になりました。いただいたご意見は大事にしたいと思っています。全体的に厳しい財政状況の中で精いっぱい出来ることはやっていきたいと思っています。それでは、次の議題に移らせていただきます。

議題2 インクルーシブ教育について（意見交換）

（資料2に基づいて、事務局より説明）

○中川市長　　説明は以上ですが、ご意見などはございませんでしょうか。

○川名委員　　「教育委員と語ろう」というのを何回かやりましたが、頻繁に話題に出るのは発達障がいについてです。参加者自体は少ないですが、障がいのある子どもをもつ親が参加されて、教師に理解が無いとい

うことを訴えられることもあります。誰もが見て判る身体障がいなどですと、周囲も何か配慮しなくてはならないということがわかって、行き届いているのですが、発達障がいをご承知のとおり、一見すると判らないものです。知的な遅れも無い人が多いですし、大変知的能力が高い人もいます。

しかし、コミュニケーションが上手くいかないことから自己中心的に見えたり、他人の気持ちが判らなかつたりするのでトラブルを起こすことにつながるのですが、教師が何も判っていないと普通に叱るわけです。それは、対応としてはまずいわけです。

2000年代になってようやく発達障害者支援法が出来ました。特別支援学級などの教師はいいのですが、発達障がいについて、全体的に理解を深めるよう研修のあり方を考えてもらいたいと思います。

○中川市長 大事なことです。

○事務局 各校には特別支援教育のコーディネーターがおりまして、兵庫県の研修などを受けて、研修内容などを学校へ持ち帰って共有するという事は取り組んでいます。

また、現職研修部会で発達障がいについても講座を開いております。さらに、各学校では、どういう配慮が必要なのかや指導上の課題などを共有理解するための場を年度当初には設けています。

○川名委員 研修を受けた時は理解していても、いざ、子どもと向き合ってみると、強く当たってしまうことがあるのだらうと思います。

具体的な場面になった時に、教師が自分の感情をきちんと抑えて、発達障がいのことをよく理解して対応出来るかどうか。滅多にその

ような機会にあわない教師は、なかなか今、自分が目にしている子どもがそうだとは思いつかばないと思います。

研修の内容などが自分のこととして一人ひとりの教師に入ってきて、実際にそういう場面になった時には、きちんと対応出来る技術が使えるようになれば良いと思います。

○事務局 発達障がいの有無に関わらず、授業の基本である子どもへのアプローチの方法や子どもの見方というものが、きちんと出来ていないと、どうしても叱って何とか収めようとしてしまいがちになると思います。まだまだ、教師は一人ひとりが見えていないという課題があると思います。コミュニケーションスキルなどを身につけていかなくてはなりません。

○篠部委員 発達障がいに関しては、宝塚市内では、甲子園大学などで相談を受け付けています。他にも相談窓口がありますから、環境としては悪くはないと思います。

障がいがある人もいるということ、障がいのない人が幼少の時から知るということは、教育としてはとても大事だと思います。この経験の有無というのは、将来、自分が障がいのある人と対面した時の対応に違いが出ると思います。

怒ってしまう教師というのはそういう経験に乏しかったり、障がいに関しての教育をあまり受けていなかったのかもしれませんが、もし、その教師の友達に、障がいのある人がいればまた違っていたと思うのです。小さい時から、分け隔てなく一緒に教育していくことは、非常に良いことだと思っています。

○森委員 今、学校では特別支援教育を学校の基本に据えていると思います。大事なものは、まずは教師個人の気づきから。そして、学校全体で共

有して多数の職員で見ていく。多数の目を見て、次は専門の目を見ていく。毎月1回、特別支援教育部会を開催して、子どもに合った教育の仕方や環境の与え方などを教職員が共通理解していきます。学校として組織として、課題を持っている子どもたちへの支援の仕方については、各学校とも大切に取り組んでいます。

教師の理解が少し足りないという話がありましたが、今ほどの学校も特別支援教育を、学校の一番大事な基本として、教師たちも研修を受けています。

また、子どもの個性を伸ばしていくためには保護者の協力は欠かせませんが、保護者の理解を得られない場合もあります。けれども、早ければ早いほど子どもの成長にとって有意義ですから、教師だけではなくSSWの先生に入ってもらったりサポーターの方に入ってもらいながら、子どもにとって最適な学習環境や対応方法について、きめ細かく取り組んでいます。そのような対応を学校はしていることをお伝えした方が良いかと思います。

○中川市長

みんなで一生懸命取り組んでいただいているのですね。少数者に対しての理解と対応力を磨いて、教師力を高めていくことも大事だと思います。ただ講演みたいなものを聞くだけではなく、その後も、継続的に情報を共有しながら議論していくという取組がとても必要だと思います。1、2回話を聞いただけでは判らないと思うので、やはり教師力の向上というのは、常に現場でいろいろな人から学んでいくことが大事だと思います。

○川名委員

研修も含め、一生懸命に取り組んでいることと思います。しかしながら、皆その子と向き合うと、なかなかそれに合った対応が出来ないような感じを受けます。

「教育委員と語ろう」ではそういう話が出ていました。同じような話を他の親御さんも具体的に訴えてこられますね。

積極的に学校に関わって訴えていこうと思われる保護者であればいいですが、1回何かあって、がっかりして学校と関わらなくなる方もいるようです。

毎回同じような話が出るということは、やはり、一生懸命には取り組んでいますが、頭で理解していることが実践にはつながっていないのかなと思います。

○中川市長 本当に貴重なご意見をたくさん出していただきました。教育の問題や教育委員会との意思疎通、そして横断的な取組としての情報の共有を図れるようにこれからも努めていきたいと思っております。

事務局から何か連絡事項はありますか。

○事務局 次回の総合教育会議の開催日と議題につきましては、後日改めてご連絡させていただきます。

なお、今年度は2回の開催を予定しており、次回は年明けの予定です。宜しく願いいたします。

○中川市長 それでは、本日はどうもありがとうございました。